

# GBC®

## FOTON 30

オートフィードラミネーター

### 設置および操作マニュアル



アコ・ブランド・ジャパン株式会社

キ  
リ  
ト  
リ  
線

## パウチラミネーター 持込修理 保証書

弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。  
保証期間内に、取扱説明書等の注意書きにしたがって正常な使用状態で故障した場合には本書記載内容に基づき、お買い上げの販売店が無償修理いたします。お買い上げの日から左記保証期間内に故障した場合は商品と本書をお持ちいただき、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

品名	オートフィードラミネーター FOTON 30
品番	GLM FOTON30
保証期間/ 枚数	2年間 または 加工枚数 5000 枚までのどちらか早いほう
★お買上げ日	年    月    日
★お客様	ご芳名 ご住所 TEL (    ) (    ) (    )

# 見

住所/店名	販売店
TEL (    ) (    ) (    )	<h1>本</h1>



アコ・ブランド・ジャパン株式会社  
www.accobrands.co.jp

お客様相談センター(野田サービスセンター) ー  
04-7129-2135 (代)

★印欄に記入のない場合は無効となりますので必ずご確認ください。

### 個人情報の取り扱いについて

本保証書にご記入いただいたお客様の個人情報の取扱いは、保証期間内のサービス活動や保証期間経過後の安全点検活動のために利用させていただきます。ご了承ください。おお客様の個人情報は当社にて厳重に管理いたしますが、修理のために、当社から修理委託する保安会社などに必要なお客様の個人情報を預託する場合がございます。その場合は当社が厳重に管理いたしますので、あわせてご了承ください。

## はじめに

このたびは弊社ラミネーターをお買い求めいただき、ありがとうございました。  
ご使用になる前に、必ず取扱説明書をよくお読みいただき、  
末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。  
本取扱説明書は必ず保管してください。

## ご使用上の注意

### 表示の意味



#### 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



#### 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

安全にご利用いただくために、下記の注意事項を必ずお守りください。



### 警告



危険ですので、お子様には絶対に使用させないでください。  
※思わぬけがをする恐れがあります。



マシンの上面およびラミネート直後の加工物は高温になっていますので、注意してください。※高温のため、やけどをする恐れがあります。



ネクタイ・ネックレス・髪などを引き込まれないようにしてください。  
※けがをする原因になることがあります。  
万一引き込まれたときは電源ボタンを“オフ”にして取り除いてください。



濡れた手で電源プラグを抜かないでください。  
※感電の恐れがあります。



電源コードを傷つけたり、加工したりしないでください。また、コードの上に重いものをのせないでください。  
※火災、感電の恐れがあります。



ご自分で分解、改造、修理をしないでください。  
※感電や思わぬけがをする恐れがあります。



本体内部へのエアスプレイの使用は絶対にしないでください。  
※発火する恐れがあります。



万一、煙が出たり、変な臭いをするなど、異常な状態になりましたら、使用を中止して、電源プラグを抜いてください。  
※火災、感電の恐れがあります。



### 注意



本機は紙専用のラミネーターです。他の目的に使用しないでください。



絶対に可燃物(セロハン等)、軟化しやすい物(塩ビ、ポリエチレン)は入れないでください。  
※火災の恐れがあります。



ラミネーター操作中はそばを離れないでください。  
また、加工を終了した場合は電源スイッチを必ずオフにしてください。



絶対に本体の上に物を置かないでください。  
※本体上面は高温になります。



本機は必ず平らな所へ設置し、フィルム取出口側からラミネートしたものを取り出せるスペースを取ってください。



冷暖房のそば、高温多湿な場所、埃の多い場所で使用しないでください。  
※火災、感電の恐れがあります。



本機に水などをかけないでください。  
※火災、感電の恐れがあります。



電源プラグを抜く時は必ずプラグ部を持って抜いてください。  
※火災、感電の恐れがあります。




必ずコンセントの近くで本機を利用し、電源プラグが容易に着脱できるように、コンセントの近くにもものをおかないでください。



電源は、延長コード含め、定格15A以上・交流100Vのコンセントを必ず単独でご使用ください。タコ足配線はしないでください。  
※感電や発熱による火災の原因になります。

### お客様へ

- ★ 小さなお子様自身の使用、または小さなお子様がいらっしゃる環境での使用は絶対にしないでください。また使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
- ★ 本機はパウチフィルムの糊を溶かすためにヒータを使用しております。ヒータ使用機器は使用初期に若干の発煙・臭気が発生することがございます。製造上の制約で、完全に無くすることが出来ませんのでご理解下さい。これは使用回数を経ることで減少しますが、数回使用しても発煙・臭気が減少しない場合は使用を中止し、弊社お客様窓口にご相談ください。
- ★ 本機は制振性を高めるために底面にゴム製の足(ゴム足)を使用しております。一般に、ゴム製品に接する面の材質によっては(特にビニル系)、接触すると褐色に変色することがあります。本機を置く場所の材質によって、変色を避けるためゴム足が直接触れないようにマット等の保護材を使用してください。

	<p><b>警告:ラミネーターのサービス作業や修理をしないでください。</b>  <b>この警告に従わない場合、重大な怪我または死につながる恐れがあります。</b></p>
---	--

下記に1つ以上当てはまる場合は、コンセントから電源プラグを抜き、カスタマーサービスにご連絡ください。





- 電源コードまたは差し込みプラグが破損している。
- ラミネーター内部に液体が混入した。
- 取り扱いミスをしてからラミネーターが誤作動している。
- 本説明書に記載されているとおりにラミネーターが動作しない。

## 設置

- 輸送による破損については、直ちに輸送会社に連絡してください。
- ラミネーターは、耐荷重**25**キロ以上の安定した平らな場所に設置してください。
- 快適な姿勢で操作いただくために、**70**センチ以上の高さがある所に設置してください。ゴム製の足が**4**つすべて設置面に載るようにしてください。
- 電源コードを適切な電源に接続してください。ラミネーターを接続している同じコンセント(分岐回路)に別の機器を接続しないでください。ブレーカーがトリップする、またはヒューズが飛ぶなどの問題が発生することがあります。
- 排出されるフィルムが自然落下できるだけの広さを確保してラミネーターを設置してください。ラミネートされた原稿が取出口に蓄積すると詰まりの原因となります。
- 暖房や冷房の近くにはラミネーターを設置しないでください。強制空気、暖気、冷気が直接当たる場所には置かないでください。


## Foton 30のお手入れ

オペレーターがすべきことは定期的なローラーの清掃だけです。ローラーを清潔に保つことで、ラミネート加工物は堆積した埃や接着剤による被害を受けずに済みます。

	<p><b>危険: 下記の手順を実行する際、ラミネーターは熱くなっています。</b>  <b>細心の注意を払ってください。</b></p>
	<p><b>警告: ローラーには洗浄液や溶剤を使用しないでください。</b></p>
	<p><b>警告: 「可燃性」と書かれた接着剤をラミネートしないでください。</b></p>
	<p><b>警告: ラミネーターを濡らさないでください。</b></p>

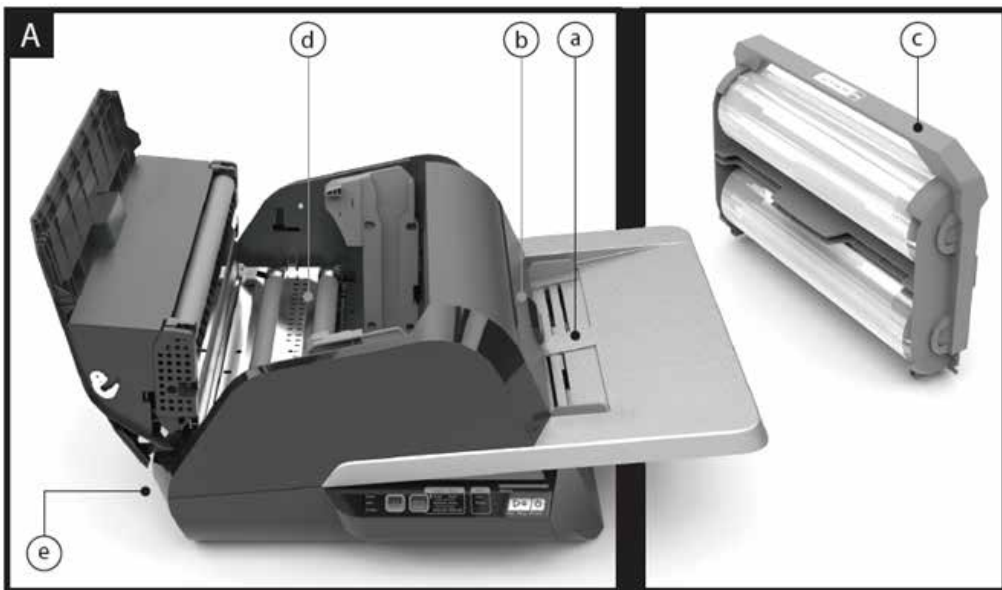
1. 本機に電源を入れ、ウォームアップが完了するまで待ちます。
2. シルバーのラッチを上げてラミネータードアを開きます。
3. 湿らせた清潔な糸くずの出ない布で上段のローラーを清掃します。接着剤が堆積している場合は、水の代わりにイソプロピルアルコールをご使用いただけます。
4. フィルムエッジの先端をカートリッジのハンドルの高さまで持ちあげます。
5. 湿らせた清潔な糸くずの出ない布で下段のローラーを清掃します。接着剤が堆積している場合は、水の代わりにイソプロピルアルコールをご使用いただけます。
6. フィルムエッジの先端を適切な位置にセットし、ドアを閉じます。
7. 実行/停止ボタンを**5~7**秒間長押しして、手動でローラーを正回転させます。
8. シルバーのラッチを上げてラミネータードアを開きます。
9. ステップ**4**から**6**を繰り返します。

注意: 金属製の研磨パッドを熱いローラーの清掃に使用しないでください。

	<p><b>警告: 装飾品および金属をラミネートしないでください。</b>  <b>ローラーが損傷する恐れがあります。</b></p>
---	---

サイドカバーとフィードテーブルは、糸くずの出ない布と中性洗剤で清掃いただけます。

## 各部の名称と働き



### A. ラミネーターの各部の名称:

(イメージAを参照)

#### ① フィードトレイとサイドガイド

- i. ラミネートする原稿を置き、サイドガイドで傾きを抑えます。原稿が大きいときにはエクステンションを広げます。

#### ② フィーダー/フィーダードア

- i. 原稿をラミネーターに供給します。ドアの赤ランプは給紙ミスが発生したことを示します。給紙ミスを解消するにはこのドアを開きます。

#### ③ フィルムカートリッジ

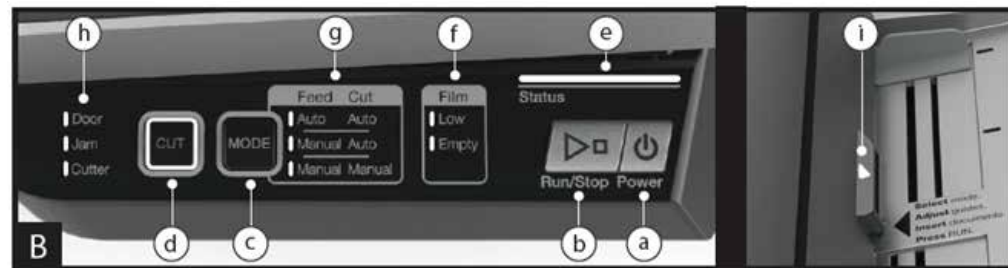
- i. フィルムがなくなったとき、または違う厚さのフィルムが必要なときは、フィルムカートリッジを交換します。詳細はP9「カートリッジフィルムの取り付け」を参照してください。

#### ④ ラミネータードア

- i. このドアから、ローラーやフィルムカートリッジなどラミネーター内部の部品にアクセスできます。
- ii. 開くには: シルバーのラッチを引き上げます。
- iii. 閉じるには: シルバーのラッチをつまんでドアをゆっくり下げ、ラッチを押して閉じます。閉じる際、ラミネータードアを上から押さえないでください。

#### ⑤ オートトリマー

- i. トリマーは、オートカットモードでは、原稿の先端と後端を検出してフィルムを切断します。マニュアルカットモードでは、カットボタンが押されるとフィルムを切断します。



### B. コントロールパネル:

(イメージBを参照)

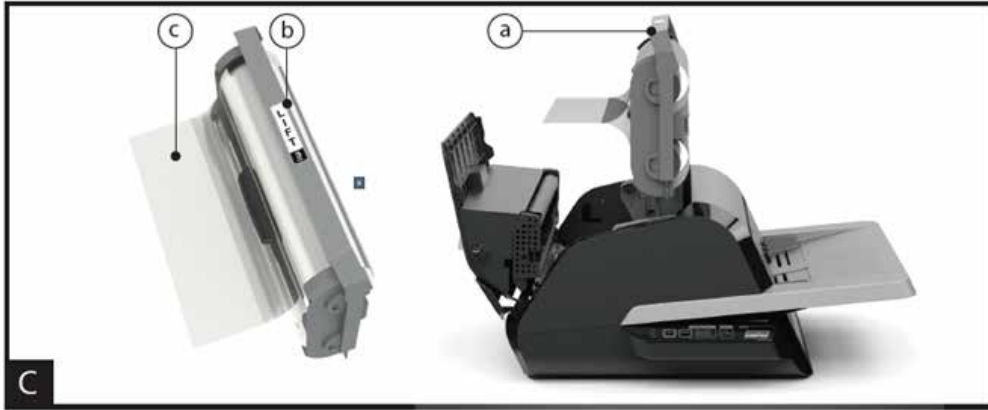
#### ボタン

- ① **電源** – 本機の電源をオンまたはオフにします。15分間使用しないと本機の電源は自動的にオフになります。
- ② **始動/停止** – ラミネーターの開始と停止操作を行います。
  - i. 手動正回転: ボタンを長押しするとラミネーターローラーを手動で正回転させます。詰まりを除去するために使用できます。
- ③ **モード** – 3種類の操作モードを、順番に切り替えることができます。
  - i. オートフィード/オートカット  
64~120g/m<sup>2</sup>の標準サイズ of 用紙を加工する場合に最適です。
  - ii. マニュアルフィード/オートカット  
オートフィードできない厚紙かつ標準サイズの用紙を加工する場合に最適です。
  - iii. マニュアルフィード/マニュアルカット  
特殊な形状や四角以外の加工に最適です。
- ④ **カット** – このボタンを押すとトリマーが回転し、フィルムを1回カットします。このボタンは主にマニュアルカットモードで使用します。

#### インジケーター

- ⑤ **ステータス** – 本機のステータスを表示します:
  - i. 緑色の点灯 = 使用可能
  - ii. 緑色の点滅 = 加工中
  - iii. 黄色の点灯 = ウォームアップ中
  - iv. 黄色の点滅 = ウォームアップ中だがRunボタンを押すと、使用可能状態になり次第ラミネートを開始。
  - v. 赤色の点灯 = エラー状態
- ⑥ **フィルム** – フィルムが少ない(残量およそ30%)、またはなくなるとLEDランプが点灯します。
  - i. 少 = 黄色のLEDランプ
  - ii. 空 = 赤色のLEDランプ
- ⑦ **モード** – 選択されている本機の操作モードを緑色のLEDランプが示します。
- ⑧ **エラーメッセージ** – 解決する必要があるエラーメッセージを表示します。
  - i. ドア: ドア的一方または両方が開いています
  - ii. 紙詰まり: 本機で発生する可能性がある詰まりは2種類あります:
 

1. ラミネータージャム: 実行ボタンを長押しし、ローラーを手動で正回転させることで詰まりを除去します。
    2. フィーダージャム: フィーダードアを開け、紙を取り除きます。
  - iii. カッター: トリマーが切断を完了できません
- ⑨ **マニュアルフィードインジケーター** – フィーダードア上にあり、ラミネーターに原稿を手動で供給できるよう準備ができると緑色で点灯します。



## C. フィルムカートリッジ:

(イメージCを参照)

- ① **カートリッジ** – ラミネーターに挿入します。
- ② **カートリッジラベル** – フィルムの厚さを示します。ハンドルの上部にあります。
- ③ **フィルム先端部** – フィルムカートリッジに取り付けた密封ラミネートフィルムの先端**75～100mm**。フィルム先端部は本機の取出口の方に向けてください。

## 操作

### 動作モード:

#### オートフィード / オートカット

64～120g/m<sup>2</sup>の標準サイズの用紙を加工する場合に最適です。

1. 電源ボタンを押して本機の電源をオンにします。本機の起動時はオートフィード / オートカットモードになっています。
2. フィードトレイに原稿を置きます。
3. サイドガイドをスライドさせて原稿に合わせ、ラミネート時の傾きを抑えます。
4. 実行ボタンを押します:

注意: 本機のウォームアップが完了する前に実行ボタンが押されると、ステータスバーが黄色で点滅します。ラミネーターはコマンドを受け付け、適切な温度に達すると自動的にラミネートを開始します。

5. 原稿は自動的にラミネートされ、本機から排出される際自動的にカットされます。

注意: 原稿がラミネーターに取り込まれている途中で停止ボタンを押した場合、本機はその原稿のラミネートを完了してから停止します。

#### マニュアルフィード / オートカット

注意: オートフィードできない厚紙かつ標準の長方形の原稿を加工する場合に最適です。

1. 電源ボタンを押して本機の電源をオンにします。
2. モードボタンを押してマニュアルフィード / オートカットモードを選択します。
3. 本機が適切な温度に達し、ステータスランプが緑色で点灯するまで待ちます。
4. フィードトレイに最初の原稿だけをセットします。原稿はフィードトレイの中央に置き、フィーダーにしっかり挟まるように奥まで押し込みます。
5. 実行ボタンを押します。原稿がラミネーターに引き込まれます。
6. 原稿のラミネートが始まったら、マニュアルフィードインジケーターが緑色で点灯するまで待ちます。点灯したら、本機に次の原稿を手動でセットできます。この手順を一度にシート1枚ずつ、すべてのジョブが完了するまで繰り返します。
7. 原稿は自動的にラミネートされ、本機から排出される際自動的にトリミングされます。
8. 最後の原稿がカットされて排出されると、本機は自動的に停止します。

#### マニュアルフィード / マニュアルカット

注意: このモードは、特殊な形状や四角以外の原稿などオートフィードできないものに最適です。

1. 電源ボタンを押して本機の電源をオンにします。
  2. モードボタンを押してマニュアルフィード / マニュアルカットモードを選択します。
  3. 本機が適切な温度に達し、ステータスランプが緑色で点灯するまで待ちます。
  4. フィードトレイに最初の原稿だけをセットします。原稿はフィードトレイの中央に置き、フィーダーにしっかり挟まるように奥まで押し込みます。
  5. 実行ボタンを押します。原稿がラミネーターに引き込まれます。
  6. 原稿のラミネートが始まったら、マニュアルフィードインジケーターが緑色で点灯するまで待ちます。点灯したら、本機に次の原稿を手動でセットできます。この手順を一度にシート1枚ずつ、ジョブが完了するまで繰り返します。
  7. いつでもフィルムをカットしたいタイミングでカットボタンを押して切断します。
- 注意: 原稿を切断してしまうことのないように、原稿全体が本機から排出されるのを確認してからカットボタンを押すようお勧めします。
8. 最後の原稿が本機から排出されたら、停止ボタンを押してラミネート加工を停止します。
  9. ラミネーションが停止したら、カットボタンを押して本機から出ている残ったフィルムを切断します。

## カートリッジフィルムの取り付け



**危険：下記の手順を実行する際、ラミネーターは熱くなっている場合があります。細心の注意を払ってください。**

注意：フィルムカートリッジには「ロール終端」のラベルがあり、ラミネーターが自動的に検出します。検出されると、ラミネーターはフィードトレイに残っている原稿の給紙を停止します。ラミネーター内に残っている原稿のラミネートは続行します。ラベルは最後の原稿に出てきますが、後から剥がせます。

P10 のイメージ 1 ~ 4 で手順を説明しています

### 1. ラミネータードアを開く

ラミネータードアを開くには、本機上部にあるシルバーのラッチを引き上げ、ドアが完全に開くまでドアを持ちあげます。

### 2. カートリッジの取り外し

カートリッジハンドルを持って引き上げ、カートリッジを取り外します。

**危険：フィルムがいっぱいのカートリッジは重量があります。**

### 3. カートリッジの挿入

交換カートリッジの突起部をラミネーター内側にあるグレーのチャンネルガイドに合わせて挿入し、下におろします。

**注意：フィルム先端部はフィーダーから離し、本機取出口の方に向けて挿入する必要があります。**

### 4. ラミネータードアを閉じる

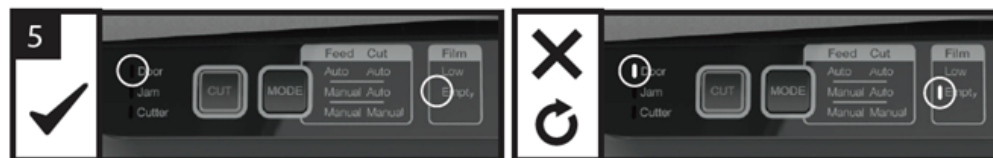
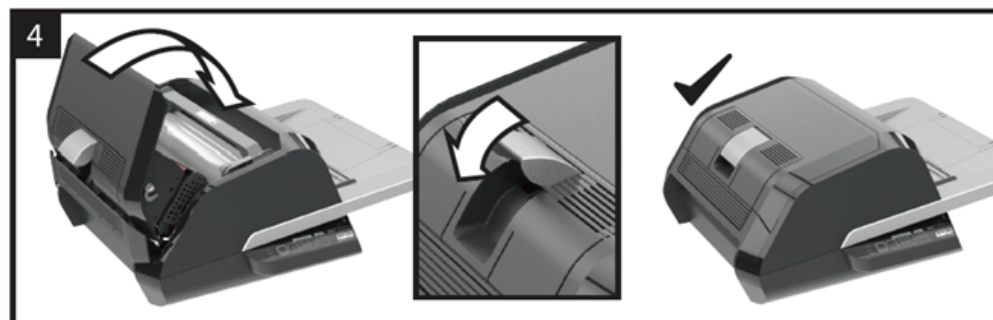
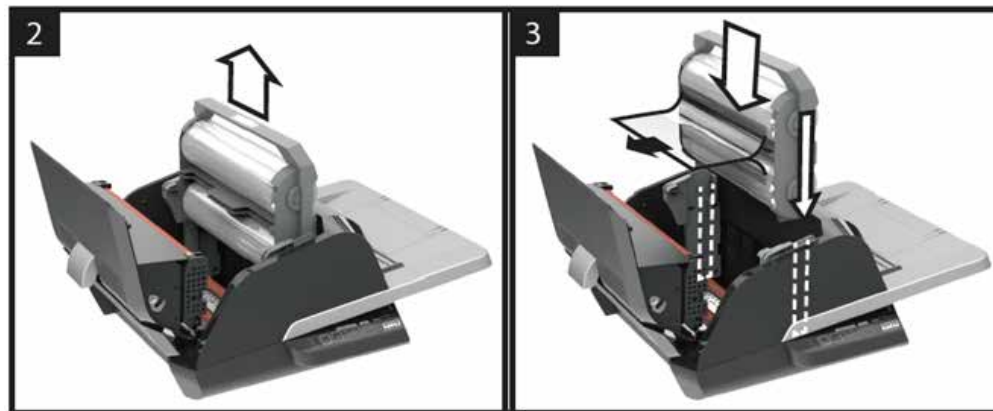
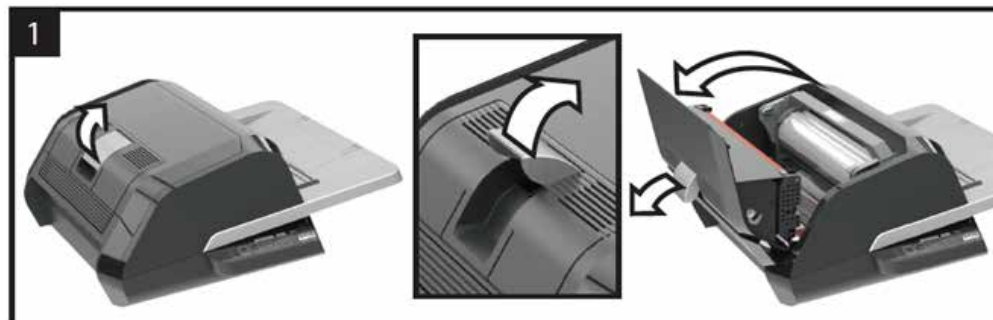
ラミネータードアを閉じるには、ドアをゆっくりおろし、上部にあるシルバーのラッチを完全に留めます。閉じる際、ラミネータードアを上から押さえつけたりせず、ラッチを使用してください。

### 5. カートリッジが完全に挿入されていることを確認します

フィルムカートリッジが取り付けられていない、または下まで完全に挿入されていないと、「空」インジケーターが点灯します。

### 6. 自動送り

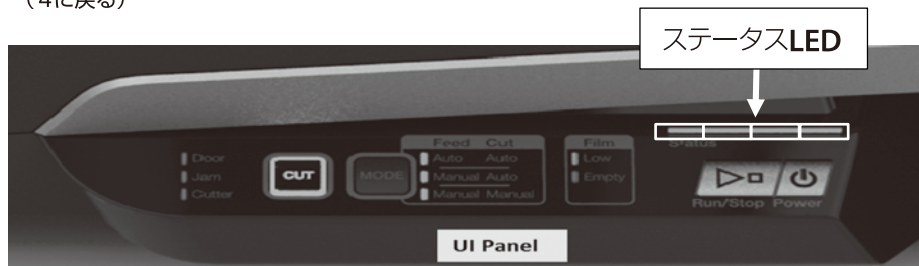
ラミネーターが適切な温度に達すると、本機はフィルム送りを開始し、およそ230mm送って、フィルムがしわになるのを防ぎます。



## 加工枚数の確認方法

### 手順

1. カートリッジをセットする。
2. 上部ドアとフィーダーのドアを閉じる。
3. 電源を入れる。
4. 上部ドアを開ける → ステータスLEDがエラー(赤)になる。
5. 「カット」ボタンと「モード」ボタンを同時に押し続けて3秒以上5秒以内で離す。
6. ビープ音が1回鳴る → 全てのステータスLEDが2秒間消灯→3秒間再点灯→1秒間消灯→赤点灯(4に戻る)



3秒間の再点灯の時の色で大まかな加工枚数がわかるようになっており、各色が示す加工枚数は下記の通りです。保証枚数である**5,000**枚を超えている場合は「赤」点灯になります。

青…0-1500 緑…1501-3000 黄…3001-5000 赤…5000<

## こんなときは

現象	原因	対処法
電源ボタンを押しても電源がオンにならない	電源コードがコンセントにしっかりと差し込まれていない可能性がある	コンセントにプラグを完全に差し込んでください。 コンセントが通電されているか確認してください。
ステータスインジケータが赤い	ドアエラーインジケータが赤い	フィーダートレイから用紙をすべて取り除いてください。ラミネータードアとフィーダードアをどちらも開いてから閉じます。ドアが完全に閉じていることを確認してください。
	紙ジャムエラーインジケータが赤い	フィーダードアを開き、フィーダートレイから用紙をすべて取り除いてください。フィーダードアを閉じます。
	フィルム空インジケータが赤い	カートリッジの「ロール終端」ラベルが検出されました。フィルムカートリッジを新しいカートリッジと交換して、ラミネータードアを閉じてください。

ステータスインジケータが赤い	カッターエラーインジケータが赤い	<p>カッターが切断を開始、または切断を完了できませんでした。手動カットボタンを1回押し続けてカッターを動かしてみてください。解消しない場合は下記を試してください: ラミネーターの取出口のフィルムがまったく切れていないか、部分的に切れているか確認します。</p> <p>フィルムがまったく切れていない場合: 実行ボタンをおよそ<b>10~20</b>秒間長押しし、手動でフィルムを送ってください。ラミネーターの取出口に排出途中のラミネートされた原稿が残っている場合は、完全に排出されるまで実行ボタンを長押ししてください。次に手動カットボタンを押して、カッターをアクティブ化できるか確認してください。</p> <p>フィルムが部分的に切れている場合: ラミネータードアを開けて、トリマーの刃が見えるか確認してください。ラミネーターの背面からフィルムまでの途中辺りにあります。ハサミを使用して、ラミネーター取出口にぶら下がっているフィルムを切断します。次にトリマーの刃の近くに指を近づけないように注意して、カートリッジを取り外します。ラミネータードアを閉じて、手動でカッターを回転させられるか試します。カッターが動作したら、カートリッジを再度取り付けます。カッターに引っ掛かったフィルムの先端部を切り取る必要がある場合があります。フィルムを切り取る必要がある場合には、フィルム先端部として密封フィルムを<b>100mm</b>残してください。カートリッジを再度取り付けます。本機はウォームアップが完了すると、自動的にフィルムを送ってトリマーをアクティブ化します。</p> <p>上記手順でカッターが動作しない場合は、サービスセンターまでご相談ください。</p>
ラミネートされたフィルムにしわが寄っている	フィルムの取り付け不良	<p>実行ボタンを長押しして、手動でフィルムを送ってください。フィルムをおよそ<b>125~500mm</b>送るとしわは解消されます。しわが解消されたら手動カットボタンを押して、使用準備完了です。</p> <p>しわが解消されない場合は、ラミネータードアを開きます。ラミネーターから出ているフィルムを持ち、ピンと引っ張りながらラミネータードアを閉じます。上記手順を繰り返すことでしわは解消されます。</p>
フィルムエッジがズれる	上段と下段のフィルムロールが正確に合っていない	実行ボタンを長押しして、手動でフィルムを送ってください。 <b>125mm</b> 送ります。ラミネーターから排出されるフィルムを持ち、ピンと引っ張りながらラミネータードアを閉じます。
排出された原稿がフィルム内で斜めになっている	原稿が斜めに給紙されている	<p>用紙をセットする前に、用紙の先端を平らな台の上でとんとんと揃え、反対側も同様にして、用紙をきれいに揃えます。</p> <p>オートフィーダーに用紙を置き、エッジガイドをスライドさせて用紙に合わせます。</p>
重送が繰り返し発生する	用紙が静電気を帯びている	用紙をさばく、または給紙する前に紙そろえ機を試してください。問題が解決しない場合は、マニュアルフィード/オートカットモードを使用してください。
給紙ミスが繰り返し発生する	ローラーが用紙の上で滑って給紙できない	<p>用紙をさばく、または給紙する前にペーパージョガーを試してください。問題が解決しない場合は、マニュアルフィード/オートカットモードを使用してください。</p> <p>給紙ミスが続く場合は、マニュアルフィード/オートカット操作モードを使用して、用紙を一度に<b>1</b>枚ずつ手動で給紙してください</p>

機種	オートフィードラミネーターFOTON 30	
動作速度	75 $\mu$ m 700mm/分 100 $\mu$ m 670mm/分	
動作モード	オートフィード / オートカット マニュアルフィード / オートカット マニュアルフィード / マニュアルカット	
ウォームアップ時間	3~4分	
最大ジョブ枚数(オートフィード時)	30枚 (75g/m <sup>2</sup> の場合)	
最大フィルム幅	306 mm	
対応用紙厚	マニュアルフィード 64~250g/m <sup>2</sup> オートフィード 64~120g/m <sup>2</sup>	
対応する原稿長	最小 152 mm 最大 432 mm	
対応する原稿幅	最小 127 mm 最大 297 mm	
外形寸法	幅	577 mm
	高さ	245 mm
電気定格	電圧	100V
	周波数	50/60Hz
ヒューズ	あり(内蔵、交換不可)	
動作環境	5~35度 最大高度2,000m	

図 1 Foton 30 外形寸法



## 保証とサービス

- ★保証書は内容をご確認のうえ、大切に保存してください。  
販売店印、お買い上げ年月日の記入の無いものは無効となりますのでご注意ください。
- ★保証期間中に正常な使用状態で、万一故障した場合には、保証書記載事項に基づき、無償修理または交換いたしますのでお買い求めの販売店、または、弊社へお申し出ください。

- (1) 保証期間内でも次のような場合には有料修理となります。
  - a 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
  - b お買い上げ後の取付場所の移動、落下、引っ越し、輸送等による故障または損傷。
  - c 火災、地震、水害、落雷その他天災地変ならびに公害や異常電圧その他外部要因による故障または損傷。
  - d 過酷な条件のもとで使用されて生じた故障または損傷。
  - e 本書の掲示のない場合。
  - f 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
  - g 本機は専門処理業者様の業務用途には適しません。ご購入等で本書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼できない場合には当社へご相談ください。
- (2) 本機は日本国内においてのみ有効です。
- (3) 本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

- (5) 補修用性能部品保有期間は製造中止後5年間です。  
同等機種との交換により修理対応とさせていただきます。

## 修理メモ

お客様相談窓口 : 野田サービスセンター 04-7129-2135

この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明な場合はお買い上げの販売店または当社へお問い合わせください。